



すずしろ

～開拓・発展・完成～

3月第13号

平成29年3月10日

開進第四中学校だより

校長 新村 紀 昭

有終の美を飾る

残り少ない1日1日を大切に

先日の校内合唱コンクールにはたくさんの保護者・地域の皆様にご参観いただき、本当にありがとうございました。体育館で実施すると発表する生徒と聴衆が大変近く、一人一人の息づかいや声の響き、目や顔の表情まではっきりと感ずることができたのではないのでしょうか。

1年生にとっては、初めての合唱コンクール、緊張もあったと思いますが、どの学級も元気よく声を出し、一生懸命に歌っている様子が分かりました。

2年生は、昨年度の経験を生かし、どの学級も指揮者に注目し、集中している様子を感じられました。学級によっては、リハーサル時からは想像できないほど声が出て、美しいハーモニーを奏で急成長を遂げた学級もありました。

3年生は、都立の入学選抜試験のため、1、2年生よりも朝練習などの期間が短いというハンデがありましたが、そのようなことを全く感じさせない、堂々とした合唱でした。どの学級も高い集中力と歌唱力で、順位が付けられない程でした。

6日の全校朝礼や合唱コンクールの開会式では、「有終の美を飾る」という言葉を引用して話をしました。この言葉は、中国の詩経（中国最古の詩集）の中の「初め有らざるはなし、克（よ）く終わり有る鮮（すくな）し」という言葉からきていること、意味は、「物事を行う上で、初めはだれでも計画を立てて一生懸命にやるが、それを最後までやり遂げる者は少ない」ということであること。

そして、中国の原文には「美」という言葉が使われていないのに、なぜ日本の故事成語には「美」が使われているのかという



こと。この「美」の意味について、皆さんは合唱コンクールで他の学級、学年が歌っている姿を見て、どのように考えますか。

何事についても、最後まで集中して成し遂げることは難しいものです。特に一人で行き届く場合、最後までやり遂げられる人は少ないかもしれません。しかし、一緒になって目標に向かって努力してくれる仲間がいることで、やり遂げられることは多くなると思います。もちろん、学級での取組となれば、生徒一人一人には個性があり、やる気のない人や甘えている人等に対して声をかけ、協力を強く求める場面や葛藤する場面もあるでしょう。どの学級にも多かれ少なかれ、そうしたドラマがあったのではないのでしょうか。

皆さんが指揮者に注目し、生徒によっては全身でリズムをとり歌声を届けようとする姿を見て、各学級ともそうした葛藤を乗り越えて、学級が団結している姿を感じ、歌う姿を「美しい、素晴らしい」と感じたのは私だけではなかったと思います。

残すところ今年度もあとわずかです。3年生は卒業に向けて、1、2年生は来年度に向けて気持ちを引き締め、日常生活でも「有終の美」を飾ってください。

保護者、地域の皆様。1年間、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。次年度もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

平成28年度 校内合唱コンクール 3月7日(火)

8年ぶりに本校体育館で実施した合唱コンクール。実行委員長あいさで「届けよう歌声を 響かせよう心の中に」のスローガンに込めた思い紹介され、コンクールが幕を開けました。行事の分散化で3月開催としたが、進路選択のあった3年生も音楽の授業で早くから取り組み、見なハーモニーを披露して最高学年としての重責を果たしました。

特別審査員の先生からは、「多くの中学校の合唱コンクールに参加した経験がありハーモニーが会っていない学校が多いのですが、四中は音が正確に取れていてバランスがよいと感じました。リズムをしっかりと刻み、歌い出しから終わりまでしっかりと歌いきることを心がけるともっとよくなります。」と評価していただきました。



合唱コンクール写真



開会式 (実行委員長・審査委員長)



1年A組「怪獣のバラード」



1年D組「心の瞳」



1年C組「新しい世界へ」



1年B組「COSMOS」



2年全員合唱



2年A組「輝くために」



2年D組「明日へ」



2年B組「君とみた海」



2年C組「HEIWAの鐘」



3年全員合唱



3年B組「青い鳥」



3年C組「信じる」



3年A組「虹」



最優秀賞：3年A組・2年C組・1年D組 優秀賞：2年A組・1年C組 おめでとう！

<保護者アンケートより>

今年度は、約250名の保護者・地域の皆様にご参観いただき、アンケートの感想もいただきました。大変ありがとうございました。そこで、その一部を紹介させていただきます。

- ★初めての合唱コンクールでした。どの学年の生徒も一生懸命で、合唱・指揮・伴奏、全てが素晴らしく感動しました。各クラスの特徴が出ていてよかったです。
- ★一つのことに向かって協力しがんばる力に感動しました。団体に協力し合える取組を事あるごとに考えていただくと、子どもと親の関係などもよくなるのではと思いました。
- ★昨年は文化センター今年の体育館、どちらも良い面があると思います。センターで歌う緊張に満ちた表情、校内での合唱は普段の学校生活が感じられ、どちらも良いと感じます。観に来る保護者として、今回は一人一人の表情・雰囲気がよく分かって良かったです。
- ★都合により3年生のみ聴かせていただきました。全クラス昨年よりも声がよく出ていてハーモニーがとてもきれいでした。受験と並行しての少ない練習時間で、よくこんなにそろったなあと感心しました。また初めての体育館での開催で、天井のミシミシ鳴る音が気になりましたが、子供たちの歌声をより近くで聴くことができるというプラス面があったと思います。

車椅子フェンシング講演会

今年度、本校は「ボランティアマインドの醸成」というテーマで重点校としてオリパラ教育を進めており、今回はその一環として障害者スポーツの理解を深める講演会を実施しました。

講演会に来ていただいたのは、2020 東京パラリンピック車いすフェンシング強化選手である、藤田道宣選手・加納慎太郎選手と協会スタッフトレーナーの牛込公一氏です。

フェンシングはあまり馴染みがないスポーツなので、初歩的なルールや用具説明、デモンストレーション、希望者による車いすフェンシング体験をしました。固定された車いすでの勝負なので、選手を囲むように身を乗り出して観ている生徒もたくさんいました。2名の選手からは、フェンシングは大きな怪我を乗り越える心の支え、生活の一部になっているということや、障害者を「支える」ということは、一人一人してほしいことは違うので相手を知ってかかわって初めてできるということ、直接、見に来て応援してもらえることが何よりのサポートになるという話をいただきました。そして、フェンシングは高校生からでも世界を目指せる、是非挑戦してほしいというメッセージもいただきました。



1年生 社会福祉体験学習

当初、12月に予定されていた社会福祉施設でのボランティア体験学習。11月には社会福祉協議会の方や施設の方を講師として招へいし、ボランティア活動の意味や社会福祉について学習しましたが、残念ながらインフルエンザ等の流行で中止となりました。

その後、実施時期について調整してきましたが、施設側のご厚意により定期テストも終わる3月に実施できることになりました。生徒達は「将棋」や「カルタ」「クイズ」「話し相手」など施設の担当者と相談しながら決めたレクリエーションの準備をして、学級ごとに訪問日を変えて午後の時間に施設を訪問し、高齢者の方たちと一緒に活動しました。



☆部活動大会結果 躍動する開四中生！！

■陸上部 目白ロードレース大会 男子団体第3位 女子団体 第2位
個人女子2km 第3位 板倉香々葉

■女子バレーボール部 区中学校1年生大会 Eリーグ第2位
大泉北2-0開四 石東0-2開四 光四2-0開四 (Eリーグ2位)

■水泳 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季大会東京都予選

女子400Mメドレーリレー (4分14秒36) 風祭結愛 **祝！全国大会出場決定！**